



No.63

令和6年7月1日

発行 多治見市教育研究所

URL: <http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でも
ご覧いただけます。

巻頭言

実るほど頭を垂れる稲穂かな

多治見市教育委員会 教育委員 水野 豊

私は、小学生時代に受け持っていた恩師のことが忘れられません。その先生は、担任を外れてからも手紙を書くといつも丁寧な字でお返事をくださいました。本当に筆まめな方です。そして必ずその時の私を褒めてくださり、励ましてくださる内容ばかりでした。そんな先生からいただいた言葉で忘れられないのが表題に書いたことば「実るほど頭を垂れる稲穂かな」です。

田植えを終えてとどんどん成長する苗は、まっすぐに天に向かって伸びていきます。夏は、暑さにも負けず大きく育ちます。そして花が咲き、受粉して実を付けます。

秋になり、収穫期が近づくにしたがって、稲穂が実の重みで垂れてきます。この様を人の成長と重ねています。人は歳を重ねるにつれて、誰に対しても謙虚な態度になり、頭を下げる、感謝の言葉を口にする様を表しています。

私はどれほど先生のことばを実践できているだろうか。なかなか実践できていない自分に気付きます。すぐカッとしてしまったり、傲慢な態度を取ったりして、成長できていない自分が嫌になることも一度や二度ではありません。古希を過ぎたのに人間ができていないなあとがっかりします。しかし、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」を自分の思想にまでできたらいいなど、いつも目標にしています。

このように考えるようになったのは、先生のおかげです。私はこの先生に出会うことができ、本当に幸せだったと思っています。

これはほんの一例ですが、先生の発する言葉が、どれだけ子どもを勇気づけていることでしょうか。長い人生の中で、ある時にふと「そういえばあの先生がこんなことを言っていたなあ」と思い出すことがきっとあるでしょう。何か困難にぶち当たったときだとか、悩み込んでいるときだとか、何かに挑もうとしているときだとかに、ふと「そういえば…」と。

先生方は、普段何気なく、生きていく上での信念、口癖を何回も繰り返して子どもたちに言ってみえることでしょうか。それが子どもの心に残るのです。

このことから、先生は未来をつくっていると感じるわけです。先生が関わる子どもたちに何らかの希望を与え、展望を示し、意欲を引き出し、それがやがて子どもの手によって何かが為されていくのです。そんな働きができる先生って素敵だと思いませんか。普段は目の前の仕事や保護者のことに目を奪われて気付きませんが、こんなにも、素敵で遠大な仕事を毎日してみえるのですね。

健康に留意しながら、教師人生を歩んでください。